

令和3年度 東久留米市立 小山小学校 学校評価報告書

学校教育目標	○元気よく	○健康に関心をもち、その維持向上に努める。	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	I 児童にとって「楽しい学校」 明日が楽しみになる学校 II 保護者・地域にとって「信頼できる学校」 通わせてよかった思える学校 III 教職員にとって「喜びのもてる学校」 働くことに喜びを感じる学校
	○なかよく	○豊かな心をもち、互いに協力し合う		【目指す児童・生徒像】	I 笑顔であいさつし、心も体も健康で過ごす子 II 誰にでもやさしく、友達とかかわる子 III 自分で考え、伝え合う子
	○やりぬく	○深く考える強い意志と、創造的な実践力を培い、自分の思いや考えを伝え合い、学び合う		【目指す教師像】	I 子供のことを第一に考え、子供とともに歩む教職員 II 保護者や地域の声に耳を傾け、お互いに高め合う教職員 III あいさつを大切に、さわやかなおもてなしができる教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題		【成果】 小山小の児童は、大変落ち着いて生活をしている。そして明るく素直ですくすくと成長をしている。規律を守ることや言われたことを確実に実行することは、比較的できる児童が多く育っている。学力は、東京都の平均正答率と同程度の状況である。主体的に活動する姿が多く見られてきた。 【課題】 学力については、「できる、できない」の差が依然として開いている状況である。基礎基本の力を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等の力をさらに高めていかなければならない。自分を振り返りながら主体的に学びに向かう姿勢が身に付いてきているので、その姿勢を評価しながら自信をもたせ、自己肯定感をさらに高めていく。			

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和5年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価(4点評価)	コメント	
1	II	学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学が意欲の向上	教員が高度な指導力をもち、個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着を図る	・学習規律を全児童が身に付け、一人一人が主体的に学びに向かえるような指導の充実を通して、基礎的な学力の定着を図る ・安定した学級経営で、落ち着いた学習環境を確立する。	・授業改善推進プランの活用 ・東京ベーンシッドドリルの活用 ・パワーアップサポートによるステップアップ教室の実施 ・タブレットパソコンを活用した授業の実施 ・リーダー・イン・ミーの取組	東久留米市の学力調査平均正答率 A:5ポイント以上↑ B:同水準 C:5ポイント以内↓ D:5ポイント以上↓	B	B	3.1	●学校での学びの目標や取組を更なる発信・開示・連携・協働の工夫が必要である。 ●各教科の内容を教員が研究されているか疑問な点がある。 ●到達状況を数値化等して、個別化を図るようにしたい。
2	I	健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	自己肯定感を高め、主体的に学びに向かう児童を育成する	学校・学級の一員として、自分で考えて自分の行動に責任をもつ児童を育てる	・リーダー・イン・ミーの取組 ・道徳の授業の充実 ・地域学習の充実 ・委員会・クラブ・たてわり班活動の充実 ・学級活動の充実	12月実施児童アンケート自己肯定感 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	B	3.4	●児童には、もう少し自己肯定感をもってほしい。 ○今年度も「自ら考え行動する」という現代・次代を生き延びるために肝要な力を学校全体として取り組まれた。「リーダー・イン・ミー」等のプログラム活用も含めて、成果が得られていると思う。
3	II	学力向上	確かな学力の育成	学校図書館の活用と充実	すべての教員が図書館機能を有効に活用し、言語活動・国語力の向上を目指す	読書や図書資料への興味・関心を高め、集中して読書をしたり、本で調べ物をしたりする児童を増加させる	・全学級が巡回司書の活用を実施 ・読書旬間の充実 ・朝読書の徹底 ・授業で図書資料の活用 ・市図書館との連携 ・書く活動の推進	12月実施児童アンケート学習における活用 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C	C	2.6	●日常的に図書活用する児童とそうでない児童との開きが目に付く。 ●図書館活用は、テーマを設定して中身を検討していくことも大事である。 ●タブレット活用等、学習環境を考える必要がある。
4	I	健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	一人一人の児童が他人と協働しながら、お互いにとってよりよい生活にしていこうとする力を育成する	考え議論する道徳授業や学級活動を通して、友達とのかかわりや自分のことを振り返ることができる児童を育てる	・道徳研修会・授業研究の実施 ・道徳授業地区公開講座の充実 ・リーダー・イン・ミーの取組 ・特別活動の充実(委員会、縦割り、学校行事等)	12月実施保護者アンケート規範意識 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	C	2.7	●規範意識は、学級による差が気になる。外部人材との触れ合う時間をつくることも必要である。 ●交通道徳(公道の歩き方、マナー等)が少し気になる。 ●ICT活用時代の「小学校」の役割として、五感やからだ全体を通して、特に他者の心のひだを察することも含めて、知性だけでなく感性を育むことが肝要であり、その体験の場としての「小学校」の役割を重く受け止めて、日々の教育実践を積み重ねてほしい。
5	III	教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	組織的に児童の実態把握・指導を推進し、特別な支援を要する児童の教育をさらに充実させる	校内委員会の計画的な開催によって組織的な対応を図り、早期に指導にあたる	・校内委員会の充実 ・研修会の実施 ・ボプラ教室指導教員とのさらなる連携 ・生活指導協議会・連絡会の充実 ・特別支援教育についての情報発信	12月実施保護者アンケート特別支援教育の充実 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	C	2.9	○特別支援教室の活用にあたっては、引き続き、特別支援教育コーディネーターを推進役として学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、個に応じた指導を充実させる。定期的な校内委員会の設定及び指導記録の共有を通して、本校教員・巡回指導教員・専門員の情報交換を密にし、組織的な支援を行う。 ○特別支援教育についての理解を深めるために、児童や保護者へ情報発信することに努める。
6	I	健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	教職員の確かな児童理解のもと、児童一人一人が自己有用感を高め、居場所のある学校作りを目指す	教職員の共通理解のもと、児童一人一人が尊重される安定した学級経営を推進し、友達とかかわりながら自分の力を高める指導を行う	・心のつぶやきアンケート 毎学期実施 ・SCIによる5年全員面接 ・教職員の情報共有 週一回連絡会	12月実施保護者・児童アンケート居場所がある学校づくり学級の荒れゼロ、いじめ全件解決が前提で A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	B	C	3	●関係者の日常的な情報交換が必要である。 ○いじめ問題については、トラブルが少なく、生活指導主任を中心として、努力されている。
7	III	教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	本物に触れるなど体験を通して、人とかかわり方を学び、自分の生き方について考えることができる児童を育成する	外部人材をあらゆる機会に活用し、人とかかわる経験を多く積むようにする	・地域環境地図「こやマップ」の取組 ・防災教育(地域防災訓練) ・地域学習、農園体験 ・ふれあい塾など	12月実施保護者・児童アンケート人材活用 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	C	3	○外部人材活用は、農園活動も含めて充実している。更なる人材発掘に力を入れてほしい。
8		オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	伝統と文化の理解の推進	オリンピック・パラリンピック教育の取組を通して、平和な社会実現に貢献する精神と態度を育成する	日本の伝統・文化に触れる体験や障害者理解につながる体験を積ませ、オリンピック・パラリンピックの精神に迫る	・世界友達プロジェクトの取組 ・国際理解教育として講師を招聘しての授業実施 ・アスリートから学ぶ授業の実施 ・オリパラ観戦、聖火ランナー応援	12月実施保護者・児童アンケートオリンピック・パラリンピック教育 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C	D	2.0	●オリパラは、教育として盛り上がりに欠けた。テレビで見るのと実際の観戦では、大きな差がある。 ●世界で活躍する日本人の紹介もよい。 ●教員の力として、個人差が顕著である。日々の授業に追われているように見受けられる。先生方が学べる機会を設けて、スキルアップしていく必要がある。 ○小山小のまとまりを感じる。教員がよく動いて、よくやっている。 ●小山小のすべての教職員が、小山小の一員(顔)として、取り組んでほしい。
9	III	教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	教員自身が「働き方改革」を意識し、いつでも子供の前ではつつとした姿で対応し、様々な刺激を与えられるようにする。	教員自ら出退勤時刻を意識しながら健康管理するとともに、自分の時間を作り出すよう努める	・定時退勤日の設定 ・アニバーサリー休暇 ・教職員の相談受入体制 ・会議内容の精選 ・校務支援システムの活用	12月実施教員アンケートライフ・ワーク・バランス A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	B	3.0	○若手教員が増加している中で、学年内での連携をさらに強化し、学級経営や教材研究、児童理解に力を注げるよう、引き続き努める。